

平成30年度5月号 [5月15日(発行)]



東風だより

川口市立東中学校
川口市東本郷2-20-47番地
TEL 048-281-4065
特別支援学級 285-2423
さわやか相談室 281-4627
<http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/higashi-j/>

家族のコミュニケーション

校長 安部正幸

私が先日あるファミリーレストランで食事をしていると、父母と兄弟の四人家族が入ってきました。家族で食事をする微笑ましい光景だなと思っていました。しかし、店員が来て注文が終わると、父母はそれぞれにスマートフォンを取り出し、別々に操作を始めました。子ども達はゲーム機を取り出し、それぞれがゲームを始めました。そこに全く会話はありませぬ。食事が運ばれてきて食事が始まってもその光景に変化はありませんでした。結局この間交わされた会話は、母がスマートフォンをいじりながら「早く食べなさい。」と言ひ、それに対して子ども達が「うん。」と言っただけでした。そして、その家族は食事が終わると早々に店を出て行きました。

子ども「食事、楽しい」減少 親のスマホ使用で

これは、4月15日の毎日新聞に載っていた記事のタイトルです。記事には次のようなことが載っていました。

中学生が家で食事をしている時、親がスマートフォンを使っていると食事を「楽しい」と感じる率が下がるとの研究結果を、熊本県立大の坂本達昭講師(栄養教育学)らがまとめ、日本健康教育学誌に論文発表した。特に男子は母親、女子は父親に対し、その傾向が強かった。家族らと食事する「共食」とスマホ利用の関連についての研究は、初めてという。(中略)坂本講師は「保護者が食事中にスマホを使うと、子どもは自分に無関心だと映るのではないか。男女差はさらに検証する必要があるが、普段あまりコミュニケーションがない異性の親にも話を聞いてほしいという思いがあるのかもしれない。食事中のスマホ利用について家族で向き合うことが大切だ。」と話している。

私が子どものころ、父が食事中に新聞を読んでいたら母が父を注意したことがありました。また、テレビを見ながら食事をするのは行儀が悪いと躰けられました。そのときは、それ以上のことは感じませんでした。今思うところこのように家族のコミュニケーションを大切にする心が隠れていたのかもしれない。今回、問題になったのは「共食」の中でのことですが、最近さらに問題になっているのは、子どもたちの「個食」です。一人で食事をする子どもたちが増えているといひます。いずれにしても、家族のコミュニケーションは、子どもたちにとって、学校や社会におけるコミュニケーションの基礎となるものです。いつの時代でも大切にすしてほしいと思うところです。